

## 時間言語研究会議

主に下記の諸テーマについて研究報告，文献講読，討議等を行う研究会議を開催した。会議は主に明海大学で開催したほか，2020年度以降はオンラインで開催している。

諸言語の時間表現，日英語の時間表現の対照，モーダルとアスペクトの関係，形式意味論的観点からのテンス・アスペクトの分析，文法的アスペクトと参照点の関係，Discourse Representation Theory，談話における事象の時間関係

### 研究会で扱った主な文献

- Allen, James F. (1983). Maintaining knowledge about temporal intervals. *Communications of the ACM*, 26(11), 832-843.
- Bohnenmeyer, J. (2014). Aspect vs. relative tense: The case reopened. *Natural Language & Linguistic Theory*, 32(3), 917-954.
- Hinrichs, E. (1986). Anaphora in discourses of English. *Linguistics and Philosophy*, 9(1), 63-82.
- Hobbs, J. (1978). *Why is discourse coherent?* SRI International.
- Kamp, H., & Reyle, U. (1993). *From discourse to logic: Introduction to modeltheoretic semantics of natural language, formal logic and discourse representation theory*. Kluwer Academic Publishers.
- Klein, W. (1994). *Time in language*. Routledge.
- Lascarides, A., & Asher, N. (1993). Temporal interpretation, discourse relations and commonsense entailment. *Linguistics and Philosophy*, 16(5), 437-493.
- Partee, B. (1984). Nominal and temporal anaphora. *Linguistics and Philosophy*, 7, 243-286.
- Rullmann, H., & Matthewson, L. (2018). Towards a theory of modal-temporal interaction. *Language*, 94(2), 281-331.
- 嶋田珠巳・鍛冶広真（編著）. 2021. 『時間と言語』三省堂.
- つくば言語文化フォーラム（編）. 2001. 『「た」の言語学』ひつじ書房.
- 吉本啓・中村裕昭. 2016. 『現代意味論入門』くろしお出版.

### メンバー（順不同）

吉本啓，中村ちどり（第1回～第16回），嶋田珠巳，鍛冶広真，佐々木文彦（第11回～第13回），Joseph Tabolt（第13回～），周振（第28回～）

## 開催記録

- 第1回 2019年1月13日（対面）
- 第2回 2019年2月12日（対面）
- 第3回 2019年5月19日（対面）
- 第4回 2019年6月23日（対面）
- 第5回 2019年7月15日（対面）
- 第6回 2019年8月8日（対面）
- 第7回 2019年9月27日（対面）
- 第8回 2019年10月25日（対面）
- 第9回 2019年12月20日（対面）
- 第10回 2020年2月7日（対面）
- 第11回 2020年3月11日（対面）
- 第12回 2020年4月24日（オンライン）
- 第13回 2021年4月29日（オンライン）
- 第14回 2021年5月14日（オンライン）
- 第15回 2021年6月11日（オンライン）
- 第16回 2021年7月29日（オンライン）
- 第17回 2021年8月26日（オンライン）
- 第18回 2021年9月2日（オンライン）
- 第19回 2021年9月16日（オンライン）
- 第20回 2021年10月7日（オンライン）
- 第21回 2021年10月28日（オンライン）
- 第22回 2021年11月4日（オンライン）
- 第23回 2021年11月11日（オンライン）
- 第24回 2021年12月2日（オンライン）
- 第25回 2021年12月23日（オンライン）
- 第26回 2022年1月13日（オンライン）
- 第27回 2022年1月27日（オンライン）
- 第28回 2022年2月14日（オンライン）
- 第29回 2022年3月9日（オンライン）
- 第30回 2022年3月25日（オンライン）
- 第31回 2022年4月7日（オンライン）
- 第32回 2022年4月21日（オンライン）
- 第33回 2022年4月28日（オンライン）

第34回 2022年 5 月19日 (オンライン)  
第35回 2022年 5 月26日 (オンライン)  
第36回 2022年 6 月 2 日 (オンライン)  
第37回 2022年 6 月16日 (オンライン)  
第38回 2022年 7 月 7 日 (オンライン)  
第39回 2022年 7 月21日 (オンライン)  
第40回 2022年 7 月28日 (オンライン)  
第41回 2022年 9 月14日 (対面)  
第42回 2022年 9 月15日 (対面)  
第43回 2022年 9 月22日 (オンライン)  
第44回 2022年10月15日 (オンライン)  
第45回 2022年10月29日 (オンライン)  
第46回 2022年11月12日 (オンライン)  
第47回 2023年 1 月21日 (オンライン)  
第48回 2023年 2 月21日 (オンライン)  
第49回 2023年 3 月 5 日 (対面)  
第50回 2023年 4 月15日 (オンライン)  
第51回 2023年 5 月 6 日 (オンライン)  
第52回 2023年 5 月27日 (オンライン)  
第53回 2023年 6 月24日 (オンライン)  
第54回 2023年 7 月15日 (オンライン)  
第55回 2023年 8 月 9 日 (オンライン)  
第56回 2023年 8 月23日 (オンライン)

#### ワーキンググループ

##### ・形式意味論 WG

吉本, Tabolt, 周

上記研究会議が談話における時間構造とその構築の過程を捉えるために開発している Rr 理論について, Tabolt の形式化の案をめぐり, 関連先行研究との比較, 経験的説明力, 問題点, 改善策について討論を行った。

2023年 6 月10日 吉本, 周, Tabolt (オンライン)

2023年 6 月30日 吉本, 周, Tabolt (オンライン)

2023年 7 月24日 吉本, Tabolt (対面)

・中国語グロス検討 WG

周, 鍛治, 嶋田

中国語テキストにグロスを付与するにあたり, 文法的な機能を持つ要素にどのようなグロスを付与するのが適切であるかを検討した。

2023年4月18日 周, 鍛治, 嶋田 (オンライン)

2023年4月25日 周, 鍛治 (オンライン)

・時間語彙意味変化 WG

佐々木, 嶋田

日本語の時間語の意味変化についてコーパスデータをもとに時代的変遷を検討した。

2019年4月から3ヶ月に1回程度, 対面またはオンラインで研究討議を行った。